

Q&A 市民の目からの住みよさの実感は／防犯カメラの整備



田中 基康 議員
MOTOYASU TANAKA



「合併して損した」との声

問 中心市街地やそれ以外の地域の間で、人口や賑わい、まち機能の集積度に違いや役割があるのを前提としつつ、どの地域に住んでいても、取り残されることがなく住みよさを実感できることが大切。新宮や揖保川、御津などで聞かれるこの声についての受け止め、分析はどうか。

答 市民の素朴な声と認識しつつ、背景にある地域課題等を冷静に受け止め客観的に分析する必要がある。現在、市民アンケートでまちづくりの満足度等を地区別で分析し、まちの将来像や施策内容等を総合計画審議会で審議している。市長対話広場や出前講座により市民との対話を通じ課題解決に向けた方策等を検討している。

市街地調整区域の区分廃止

問 農地法等の問題もあるが、調整区域は地域格差や人口減

に拍車をかけているとの指摘も根強い。加西市では市街化区域と調整区域の区域区分（線引き）を廃止した。調整区域の区分をなくし、県の建築許可を不要とし、制約を緩和し柔軟に対応する観点からの新たなルール化に取り組んだ。本市としては現行を堅持するのか、新しい制度設計に前向きに取り組む考えはあるか。

答 一定の開発圧力がある中で、無秩序な開発によるスプロール化を防ぐためにも区域区分を維持する。調整区域においても規制緩和を用いて秩序ある土地利用により、地域活力や人口の維持、地域産業の活性化を図る。加西市や他市の状況を注視し引き続き調査研究していく。

防犯カメラの整備強化

問 新宮町で最近起きた事件でも「防犯カメラをもっと」という声が多く聞かれた。充足度や強化ポイントは。

答 現在、市設置は361基、自治会等への設置補助は188基である。年々増加している自治会等への設置補助を継続する。児童生徒見守りと犯罪防止を目的に通学路や学校周辺道路等へ50基増設の整備方針を策定中である。

Q&A 「健幸(けんこう)」な人を増やすため、地域の歯科医不足に危機感を!



和田 美奈 議員
MINA WADA



歯科医師不足と歯科難民問題への対応について

問 歯科医師の都市部集中が進む中、地方都市では後継者不足等により歯科難民（必要な歯科医療を受けられない住民）の増加が懸念される。一方で、口腔機能の低下（オーラルフレイル）を予防することは、健康寿命の延伸、社会保障費の抑制にもつながる。新宮地域においては既に歯科医師不足が深刻化しており、新規患者が受付できない状態。市の「健康増進計画」では、かかりつけ医を持つ方を増やす目標を掲げているが、歯科医師にアクセスできない人を増加さないための人材確保等の対策こそ急務と考える。この課題について危機感が薄いように感じるが、どのような取組を行うのか。

答 本市の歯科医院数は、24院で近隣市町の中においても少なく、歯科医師の高齢化率も高い状況にある。本市の人口規模であれば、36院程度が適正な基準となる。

市としては、引き続き、オーラルフレイル予防に重点を置いていた予防歯科をより一層推進していく。歯科医師不足については、歯科医師会と情報共有し、他自治体の取組を調査研究し、又、国や県の動向を注視しながら連携を図っていくことが必要と考える。

役所敷地内へのキッチンカー出店(有料)について

問 市役所内には食堂がなく、近隣飲食店も減少している。職員の昼食の利便性だけでなく、賑わいの創出や本市で出店を希望される方への足がかりとしても有効と考えるがどうか。

答 来庁者の駐車スペースの確保、近隣店舗への影響など貸出条件が整えば、賑わいの創出にもつながると考えるため、調査研究していく。

その他の質問事項

- 資源ごみ回収拠点の設置
- フレーションの導入
- 市民等も情報発信ができるシティプロモーションサイトの導入
- 地域おこし協力隊の活用